

## 今回の中長期ロードマップ改訂の背景

### ◆ 福島評議会で寄せられたコメント

- 第2期についての期間や工程を細分化、具体化すべき。
- 「いつまでに何をやるか」というロードマップの基本的要素が欠けている。
- 短期のロードマップを工夫して作成して欲しい。
- 作業の進展、各種調査により新たに判明したリスクも折り込み、住民目線で手の届く形での見直しを期待。
- 工程を進める上での必要な条件、リスクをあらかじめロードマップ上に記載しておくべき。

### ◆ 原子力損害賠償・廃炉等支援機構の発足

- 中長期的な課題(燃料デブリ、廃棄物、研究開発)を検討する体制の強化
- リスク低減を掲げた戦略プランの策定

### ◆ 各対策の進捗・状況(原則3:現場状況や研究開発成果等を踏まえた継続的な見直し)

- 汚染水対策：基本方針(平成25年9月)・追加対策(平成25年12月)に基づく対策の進展
- プール燃料：4号機の取り出し完了(平成26年12月)  
1・2号機の取り出しプラン選定(平成26年10月)
- 燃料デブリ：国内外の叡智の結集  
(平成26年度に国際公募によるデブリ取り出し工法の概念検討を実施)  
炉内状況の追加的な把握
- 作業安全：相次ぐ労働災害の発生

## 中長期ロードマップ: 今回の主な改訂内容(案)

### 1. リスク低減の重視

- 廃炉作業は、地域の皆様や周辺環境及び作業員に対する安全確保を最優先に、福島第一原子力発電所のリスク低減を図るための措置。
- このため、廃炉作業の優先順位や進め方についての考え方を明確化。この考え方に従って今後の工程を整理。
  - ① 可及的速やかな対処：汚染水、プール内燃料
  - ② 周到な準備の上、安全・確実・慎重に対処：燃料デブリ
  - ③ 長期的に対処：固体廃棄物、水処理二次廃棄物
- リスク低減作業は、一時的なリスクの増加を伴うものが大半であり、実施方法によっては、リスクが過度に増加することがあるため、リスクの起源に応じて、最適なタイミングと方法を選択し、全体としてのリスクが最小となるように様々な措置を進めていく。
- さらに、敷地外に影響が及びうるその他のリスクについても定期的に総点検を行い、優先順位をつけて対策を実施する。

### 2. マイルストーン(目標工程)の明確化

- 今後の数年間を中心に、廃炉作業の目標工程を明記。

### 3. 地元等との信頼関係の強化

- 長時間を要する廃炉作業を着実に進めていくためには、地元との信頼関係をより強化していくことが必要。このため、廃炉・汚染水対策福島評議会にとどまらず、更にコミュニケーションの充実を図る。加えて、風評被害対策の観点から、報道機関、諸外国、国際機関等に対し、廃炉作業の安全対策等について、適切に情報提供を行う。

### 4. 作業員の被ばく線量の更なる低減

- 継続的に現場作業を担う人材を確保するため、法定被ばく線量限度の(100ミリシーベルト/5年、50ミリシーベルト/年)遵守に留まらず、可能な限りの被ばく線量の低減を図る。

### 5. 国内外の叡智の結集

- 実用から基礎に至る研究開発の一元的なマネジメントを図るとともに、更なる国内外の叡智の結集を進める。